

4 総務経済常任委員会の総括

■政策課題

子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク

総務経済常任委員会では、令和3年度に引き続き、政策課題（年間重点調査研究事項）に「新嵐山改革」を掲げて、次のとおり取り組んだ。

（1）前年度総括事項

- ① 町民が愛着をもてる施設運営及び整備に向けた創意工夫について
町の各事業（教育、福祉、観光、産業等）における積極的な施設活用について、その可否や要否を調査研究する。
町全体（全庁）として、町民に対する施設の認知度・利用度を高めるために、各事業等での取組みを促すよう、その実現に向けた手法や手順を調査研究する。
- ② 経営状況の公表等について
経営及び利用状況等に関する住民への定期的な情報の公表について、委員会で協議・検討する。町民との意見交換会では、改革による期待と不安はいつでも「感覚」の傾向を強く感じたことから、町に対して、新嵐山の経営及び運営状況の「事実」の公表により、住民に理解される財産となるよう、その実現に向けた手法や手順を調査研究する。
- ③ 住民への広報について
議会だより等を通じて、議会の取組状況を都度広報し、住民の皆さんとの情報共有に努めると共に、併せて広く意見をいただきながら「子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク」の実現を目指す。

（2）取組事項（実施概要）

- ① 現地確認（9月23日～25日）
日程を設定し、利用客として新嵐山スカイパークの状況を確認した。担当課の了承を得て利用者の声を聴き、雰囲気を感じること、良い点、改善すべき点など、調査にあたっての委員それぞれの考え方を整理することができた。
- ② アンケート調査（10月12日～30日）
昨年同様にオンラインによるアンケート調査を実施し45件の回答を得た。

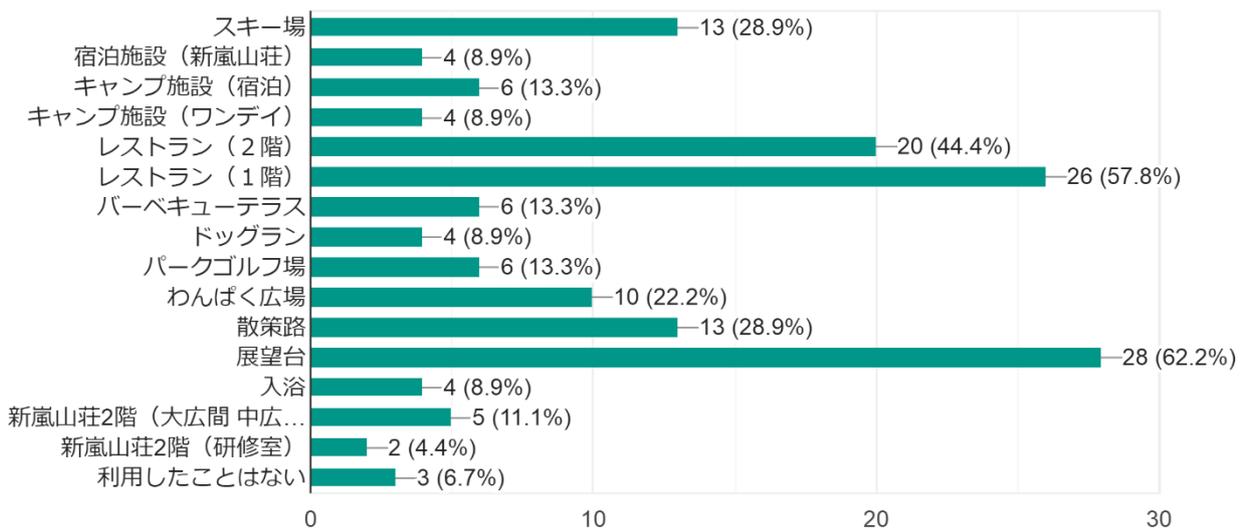
問1 令和2年4月以降に「新嵐山スカイパーク」を利用しましたか？

45件の回答



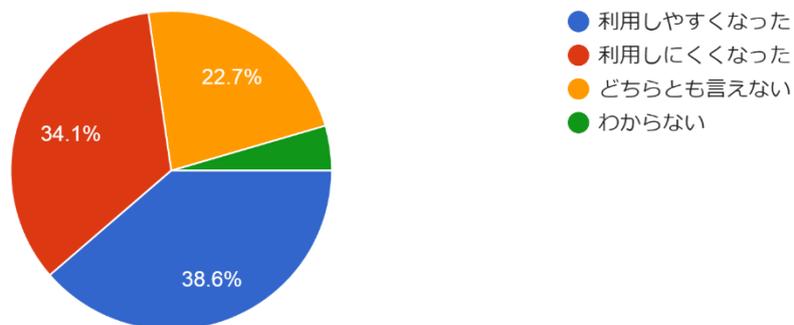
問2 利用した施設はどれですか？（複数回答可）

45件の回答



問3 令和2年度から改革を進めています。以前と比べてどのように感じますか？

44件の回答



回答者のうち、新嵐山改革の開始以降に利用した方は80%であった。単純な比較はできないが、利用した施設を昨年の調査と比べた場合には、展望台・レストラン・スキー場の利用が引き続き多く、利用頻度が高い。また、キャンプ施設・わんぱく広場・散策路など整備を進めてきた施設の利用が増加する一方で、宿泊施設やパークゴルフ場の利用は減少している。改革後に「利用しやすくなった」との回答は、昨年から12%以上増加し、「利用しにくくなった」も3%増加したが、わずかの差ではあるが「利用しやすくなった」との声の方が多くなり、改革が徐々に受け入れられているものと分析できる。

自由記載では、今後の展開に期待する声や、魅力を伝えるための工夫、具体的な提案など肯定的な意見よりも、町民本位の改革ではない、従前のようなメニューや価格への変更、施設活用などを求めるなど否定的な意見が多く見られた。

③ 芽室町老人クラブ連合会との意見交換会（11月22日）

高齢者を対象に、新嵐山荘・野外施設・その他の3つの視点での現状認識、課題解決策、あるべき姿（理想）について考え方を伺った。

意見交換を踏まえた委員会の分析では、①食事のメニューや宴会・送迎など高齢者が利用しやすいサービスの提供が不足している、②従来から愛用していた町民のニーズと「乖離」した現状が見受けられる、③パークゴルフ場の縮小とコース整備の問題、スキー場の管理運営、歩くスキーコースなどにおいて、利用者からの視点が欠如している部分が見受けられるとの3つのポイントにまとめ、新嵐山スカイパークの現状のあり方は、「町民の健全なレクリエーションと健康の増進をはかるとともに観光の振興に寄与する」という設置条例の文言に合致しているのか、という疑問を参加者の皆さんが感じていると結論付けた。

(3) 総括

令和2年9月に当委員会が町長に手交した「新嵐山スカイパーク活用計画に係る提言書」は、下記5項目を柱としたものである。

- ① 町民のための再整備計画であること
- ② 町が投資する事業費概算を示すこと
- ③ 施設整備の時期や投資規模の再検討を行うこと
- ④ 町民や利用者への情報提供、意見聴取を行うこと
- ⑤ 現状では利用不能な施設等のあり方を検討すること

このうち、②の概算は既に提示され、③についても進められているが、コロナ禍の社会情勢の中、新嵐山の経営状況は悪化し、今後ロードマップに示されている町の施設整備の再構築や、大幅な経費削減などを含めた新嵐山運営の見直しを進め、経営の正常化を目指すことで町民に理解される財産となる。

①の視点では、町民にとって誇れる新嵐山スカイパークとして設置条例に適合させつつ、レストランの改善・キャンプ場・ドックランなどハード面の見直しで利用度を高める工夫は伺えるが、環境整備や接客など利用者目線でのソフト面も充実させ、町民など来訪者の満足度を高めることが重要である。

そのためにも、④により、ニーズを捉え、新嵐山改革に対する理解を深めることもできるが、町民からなる新嵐山検討会議を立上げ、改革を進める方針を決断したことは評価できる。「町民にとっても自慢のできる新嵐山スカイパーク」を目指すためには、町民の理解と協力なくしては、成しえない。

(例1)

活用計画を策定しての改革以降、新たな試みなどで新規の利用者を増加させてきた一方で、これまで利用を続けてきた町民層からは、レクリエーション、健康増進の視点が置き去りにされているとの意見がある。

特に話題となる無料送迎、パークゴルフ場や歩くスキーコース整備などは、経費が嵩む言わば不採算部門と言え、指定管理者として運営する第三セクター独自の対応は経営面からも難しいと考えられる。

本来、この不採算ではあるが町民が期待する部分にどのような対応をするかを考えるべきは町であり、決定すべきは議会であるが、あたかも第三セクターが対応するものと町民にも見られ、議会としても十分な調査を出来かねている現状が、新嵐山スカイパーク関連事業における課題の根底である。

町的意思を示し、町民と情報を共有し、議会で議論しなければ、十分に理解が得られた改革にはなり得ない。

来年度で指定管理期間が満了となることも踏まえ、町の考えがしっかりと反映された改革を進めるためには、効果的な手法が指定管理であるかなどの視点からも調査・研究・議論を進める必要がある。

(例2)

今後の調査・研究・議論を進めるべき課題として以下2点を示し総括とする。

- 1 不採算部門と言えるレクリエーション、健康増進などの視点に対し、町がどのような考えで臨むのか調査により明らかにする。
- 2 来年度で指定管理期間が満了となることも踏まえ、指定管理が町の考えがしっかりと反映される効果的な運営手法であるか確認する。